「改憲ゆるすな！戦争法を廃止へ！9・19おおさか総がかり集会」。小雨の中御堂筋をパレード（2面に関連記事）

秋季年末闘争がはじまりました。16人勧では官民格差0.17%（708円）の原資の約3割を霞が関の職員の手当引き上げに充て、俸給表改定には約6割しか充てず、政府は「制度は国、水準は地方」の押しつけを強めています。しかし、私たちの賃金は地公法24条にあるように、生計費を考慮して決まるものです。

この秋、学習を深め、住民のために働き続けられる賃金、人員体制の確立に向け職場から大きくたたかいをすすめていきましょう。そして、国会、府議会も開会しました。住民のくらし、いのちに目を向けず、憲法がないがしろにされている政治から、住民に寄り添った温かい政治を求め、地域の仲間と共同を広げていきましょう。

秋からのたたかいを 職場から 地域から

貝塚市職労は秋年闘争勝利へ学習会（9月22日）

府民要求連絡会は、「副都心より、くらしに目を向けた府政を！」と9月27日の府議会開会日に集会とパレードを行った

おおさか自治体の仲間
発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2016年10月15日　No.327
〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目13番15号
大阪グリーン会館4階　☎06-6354-7201　FAX06-6354-7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp
発行人／荒田　功　編集人／鴻村　博
毎月15日発行（1部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

機関紙を軸に組織強化 ― 富田林市職労

9000号達成はみんなの力で

「おはようございます」の声が響くニュース配布

「機関紙の『いしかわ』が9000号を達成した。組合の運動を『見せる』機関紙を軸とした組織強化をめざしたい」と、過日開催された大阪自治労連大会で発言した、富田林市職労を訪ねました。

定期発行ができなかった時期も

組合機関紙「いしかわ」のあゆみについて、寺内克憲委員長にたずねました。

「以前は日替わりで『いしかわ』と各支部のニュースが発行されていました。しかし、人員減による業務の過密化などでニュース作成の時間が取りにくくなったり、ニュースの書き手も退職などで少なくなり、闘争時期以外は定期発行ができなくなっていきました。そして定期発行ができなくなると、配布も頼めなくなるという悪循環に陥っていました」。

早朝配布をたのんでみたら

しかし、昨年から変化がうまれました。

「組合員の加入が続いて組合に活気が出てきましたが、もっと組合の存在をアピールする必要性を感じていました。組合員・未加入の職員・管理職に訴求できるのはやはり機関紙だろうと、『いしかわ』の定期発行に取り組むことにしましたが、問題は配布体制をどうするかということでした。単組中央の役員は出先職場も多く中央の役員だけでは負担が大きいと、職員支部や青年部の本庁職場の役員に協力依頼をしました。たのむからにはニュースの定期作成という良い意味のプレッシャーとなりました」と苦笑する寺内委員長。

「組合員みんなでやっていくことが大切だと、改めて気づきました」と語る寺内委員長

快く配布している組合員からは「朝が弱いので…と思ったけれど、交代制で負担も少ないので」「いつも配っている姿を見ていて、少しでも力になればと思って」と、ニュース配布をたのまれた時を思い出しながら、「組合員以外の職場の仲間の顔を覚えられることもできますね」「最初はいやだったけれど、役員だから自覚も出てきたかな」「人勧の時なんかはいろいろ聞かれますね」「ニュースは組合員に見える活動だから、一人ひとりに手渡すのはアピールになりますよね」など、やりがいのある活動ということで意見が一致。さらに、「紙面に間違い探しを入れてみたら?」などの企画案も出され、編集会議のような雰囲気に…。

改めて気づいた「みんなでやる」大切さ

寺内委員長が「今回のことで、何をするにもみんなでやっていくことが大切だと、改めて気づきました。配ってくれる人がいるし、読んでくれる人がいる。だからニュースをしっかり作っていきたいです」と力強くしめくくってくれました。